

令和4年7月5日

令和4年度 大阪府立羽曳野支援学校 第1回 学校運営協議会

進行 井川教頭

記録 森本教頭

日時 令和4年7月5日(火) 15時～17時

場所 大阪府立羽曳野支援学校 図書室

参加者 中條委員 亀田委員 平賀委員 井上委員 前田委員

大門校長 井川教頭 森本教頭 川野事務長 多田首席 和田首席 岡田首席

田中教諭

1 校長挨拶

昨年度に引き続き、今年度も校長をさせていただきます。また日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝します。今、学校教育ではICTの活用が注目されると同時に課題もみえてきています。本日の学校運営協議会では、そういった課題に対していろいろな角度からのご意見をいただければ幸甚です。どうぞよろしく願いいたします。

2 学校運営協議会議員の委嘱、新事務局員の紹介

阪上PTA会長

井川教頭、前田委員

3 学校運営協議会 会長、副会長の確認

会長：亀田委員

副会長：前田委員

4 協議 令和4年度「学校経営計画」を踏まえた学校運営の充実について(大門校長)

昨年度の学校運営協議会のご意見も踏まえた上で、今年度の学校経営計画を作成した。以下の3点を柱にして学校経営を進めたいと思う。

①児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働の学びの充実

②支援教育力の向上

③安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり

・本校の教育実践等を紹介

分身ロボット「OriHime」の活用、年間約400人の転出入について、危機管理研修PDF版教科書について、オリンピックトーチの紹介、学習発表会、病弱支援教育等

(亀田委員)

学校経営計画の中期的目標に向けて、ブログを通して分かりやすく現在までの取り組みが紹介されている。子どもたち全体は減少している中、支援教育を必要とする子どもは増えてきている現状をみると、様々な教育的ニーズの高まりを感じる。そこで農芸高校との交流といった体験学習が更に大切になってくると思う。

(平賀委員)

社会の変化、医療の発達、ICTの進歩によって、今後病弱教育における出席の概念も変化していくと思う。退院が決まれば鞆箱にメッセージを残す取り組みは、不易の取り組みとしてよいと思う。児童生徒の心に楽しい思い出を残す意味でも今後も続けてほしい。

(中條委員)

今年度の学校目標も、病弱支援学校特有の目標でとてもよいと思う。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の大切さが言われているが、羽曳野支援学校では「個別最適な学び」が保障され、児童生徒も心地よさを感じていると思う。

(井上委員)

分身ロボット「OriHime」の活用はとてもよいと思う。原籍校と児童生徒がつながる取り組みは、学習だけでなく精神的な面で大きな役割を果たしている。病弱支援教育は、時間と場所を共有することが課題であったが、こういったICTの活用はそれを克服できる方法の一つである。

(前田委員)

コロナ感染拡大によってICTの活用は急激に進むことができ、なかでも分身ロボット「OriHime」などは注目に値する。「子どもと子どもの関係」これをどう繋いでいくかが教育にとって大切であることを実感する。

5 連絡報告事項

(1) 令和4年度羽曳野支援学校の活動について

① 教科用図書採択について (井川教頭)

- ・本校と訪問部は、羽曳野市の教科書を採択している。
- ・各分教室は、堺市の教科書を採択している。
- ・教科書採択はしているが、羽曳野支援学校として児童生徒に教科書を配付することはほとんどない。

② 教育環境の現状（各首席）

各病院によって保護者との面会時間や面会対象は異なる。また病院に入る教員の感染対策も N95 のマスクを着用する病院や、対面授業の実施ができずオンライン授業のみの病院もあり、教育環境は様々である。

③ 訪問教育について（田中教諭）

大阪府内の南エリアを中心に、入院している児童生徒に対して教育を保障している。1日2時間、週3回の授業を実施し、原籍校の学習内容に沿って授業を行っている。児童生徒の転入が急激に増加した場合は、各分教室からの教員応援や授業形態を工夫する等して対応している。

(2) その他

第2回学校協議会日程について

11月～12月上旬を予定している。

6 閉会のあいさつ（校長）

本日は貴重なご意見ありがとうございました。病弱支援教育を進めるにあたって、原籍校の様子を知る必要があります、そのための一つとして交流の大切さを改めて思いました。他にも頂きましたご意見をもとに、今年度も児童生徒が安心して学ぶことができる学習環境を更に作っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。